

タイ語の機能語 *thîi* の歴史的変化に関する先行研究

高橋清子

1. はじめに

タイ語の *thîi* は典型的な多義語、多機能語である。現代タイ語において実際に *thîi* がどのように使われているかを示すため、まずは様々な具体例を以下に挙げる。

- (1) *thîi thaang*
土地 道
敷地
- (2) *thîi tàak ʔaakàat*
ところ 晒す 大気
西洋人向け行楽避暑地（人々が身体を大気に晒すところ）
- (3) *thîi pàet krapǎŋ*
もの 開ける 缶
缶切り（缶を開けるもの）
- (4) *thîi rák*
もの 愛する
愛している人（愛するところのもの）
- (5) *bamìi sǎam thîi*
中華そば 3 類別
3 人前の中華そば
- (6) *kâwʔîi thîi sanǎam*
椅子 前置 広場
広場の椅子
- (7) *thîi kháw rian tòɔ*
名詞化 彼 学ぶ 繋ぐ
彼が進学すること

- (8) *banditwítthayaalay* *thîi* *kháw* *rian* *tò*
大学院 関係 彼 学ぶ 繋ぐ
彼が進学したところの大学院 (大学院、彼が進学したところのもの)
- (9) *rûaŋ* *thîi* *kháw* *rian* *tò*
話 補文 彼 学ぶ 繋ぐ
彼が進学するという話 (話、彼が進学すること)
- (10) *dîi cay* *thîi* *kháw* *rian* *tò*
嬉しい 補文 彼 学ぶ 繋ぐ
彼が進学して嬉しい (彼が進学することについて嬉しい)

(1)の *thîi* は実質的の意味を表す名詞として機能している。名詞 *thîi* ‘土地’ と名詞 *thaaŋ* ‘道’ が組み合わされ「敷地」という複合名詞 (慣用表現) が形成されている。(2)~(4)の *thîi* は抽象レベルの類概念を表す類名詞 class noun (Bisang 1993: 5) として機能している。(2)では類名詞 *thîi* ‘ところ’ が動詞句 *tàak Paakàat* ‘大気に晒す’ によって修飾され「西洋人向け行楽避暑地 (人々が身体を大気に晒すところ)」という複合名詞 (慣用表現) が形成されている。(3)では類名詞 *thîi* ‘もの’ が動詞句 *pàet krapǎŋ* ‘缶を開ける’ によって修飾され「缶切り (缶を開けるもの)」という複合名詞 (慣用表現) が形成されている。(4)では類名詞 *thîi* ‘もの’ が動詞 *rák* ‘愛する’ によって修飾され「愛している人 (愛するところのもの)」という複合名詞 (慣用表現) が形成されている。(5)の *thîi* は類別詞として機能している。名詞 *bamîi* ‘中華そば’ が類別詞 *thîi* ‘~人前’ を含む数量詞句 *sǎam thîi* ‘3人前’ によって修飾され「3人前の中華そば」という名詞句が形成されている。(6)の *thîi* は前置詞として機能している。名詞 *kâw?îi* ‘椅子’ が前置詞 *thîi* ‘~にて’ を含む前置詞句 *thîi sanǎam* ‘広場にて’ によって修飾され「広場の椅子」という名詞句が形成されている。(7)の *thîi* は名詞化形式 (名詞句を形成するときに使われる形式) として機能している。名詞化形式 *thîi* と節 *kháw rian tò* ‘彼が進学する’ が結びつき「彼が進学すること」という名詞句が形成されている。(8)の *thîi*

は関係節化形式（関係節を形成するときに使われる形式）として機能している。

名詞 *bandîtwîthayaalay* ‘大学院’ が関係節化形式 *thîi* を含む関係節 *thîi khâw rian tò* ‘彼が進学するところの’ によって修飾され「彼が進学するところの大学院」という名詞句が形成されている。(9)(10)の *thîi* は補文節化形式（補文節を形成するときに使われる形式）として機能している。(9)では名詞 *rûang* ‘話’ が補文節化形式 *thîi* を含む補文節 *thîi khâw rian tò* ‘彼が進学するという’ を従え「彼が進学するという話」という名詞句が形成されている。(10)では動詞 *dîi cay* ‘嬉しい’ が補文節化形式 *thîi* を含む補文節 *thîi khâw rian tò* ‘彼が進学することについて’ を従え「彼が進学して嬉しい」という動詞句が形成されている。

しかし(6)～(10)の *thîi*（前置詞、名詞化形式、関係節化形式、補文節化形式）の機能語としての位置づけや役割について、タイ語研究者の間で完全な意見の一致が見られているわけではない。例えば、(8)～(10)の *thîi*（関係節化形式、補文節化形式）の基本的機能は後続の節を名詞化することであり、(7)の *thîi*（名詞化形式）と同じだと考えることもできる。その場合、(8)「*bandîtwîthayaalay* + *thîi khâw rian tò*」の *bandîtwîthayaalay* ‘大学院’ と後続節の関係は、「名詞句（被修飾成分）」と「関係節（修飾成分）」という従属関係（彼が進学するところの大学院）ではなく、「名詞句（独立成分）」と「言い換え名詞句（独立成分）」という同格関係（大学院、彼が進学するところのもの）として捉えられることになる（cf. 高橋 2011）。同様に、(9)「*rûang* + *thîi khâw rian tò*」の *rûang* ‘話’ と後続節の関係も、「名詞句（被修飾成分）」と「補文節（修飾成分）」という従属関係（彼が進学するという話）ではなく、「名詞句（独立成分）」と「補足名詞句（独立成分）」という同格関係（話、彼が進学すること）として捉えられることになる。

本稿では、*thîi* の歴史的変化に言及している 5 つの先行研究—Kitsombat 1981（2 節）、Bisang 1996（3 節）、Singnoi 2000（4 節）、Diller 2001（5 節）、Kullavanijaya 2008（6 節）—を取り上げ、その主張の異同を見ていく（7 節）。*thîi* の意味機能

がどのように変化してきたのか、どのような意味拡張の過程を経てきたのか、それぞれの先行研究の調査結果や仮説を比較検討し、その合理性について考えたい。

2. Kitsombat 1981

Kitsombat (1981: 12-60, 133)は通時的言語資料を用いて時代ごとの *thii* の使い方を調べ、その調査結果を表 1 のようにまとめた。表 1 の上欄の「S」、「A」、「R」の記号はそれぞれ「スコタイ王朝時代(13-14 世紀)」、「アユタヤ王朝時代(14-18 世紀)」、「ラタナコシン王朝時代 (18-20 世紀)」の略である。表の下にそれぞれの使い方の例文を列挙した。

表 1 : Kitsombat 1981 の調査結果

	S	A	R
1-1. คำนำหน้าประโยคลดฐานะเป็นนามวลี (NP[ที่+ประโยค]) 節を導き名詞句にする語 e.g. (11)			√
1-2. คำนำหน้าประโยคลดฐานะเป็นส่วนประกอบนามวลี (NP[คำนาม+ ที่+ประโยค]) 節を導き名詞句構成素にする語 e.g. (12)	√	√	√
1-3. คำนำหน้าประโยคลดฐานะเป็นส่วนประกอบกริยาวลี (คำกริยา+ที่+ประโยค) 節を導き動詞句構成素にする語 e.g. (13)			√
2-1. นำหน้ากริยาวลี หลังคำกริยา “เป็น” (เป็น+ที่+กริยาวลี) 動詞 <i>pen</i> の後で動詞句を導く語 e.g. (14)	√	√	√
2-2. นำหน้ากริยาวลี หลังคำกริยา “เป็น” (เป็น+ NP[ที่+กริยาวลี]) 動詞 <i>pen</i> の後で動詞句を導き名詞句にする語 e.g. (15)	√	√	√
2-3. นำหน้ากริยาวลี หลังคำกริยา “เป็น” (เป็น+ที่+กริยาวลี+ว่า+ประโยค) 動詞 <i>pen</i> の後で動詞句と引用節を導く語 e.g. (16)			√
3. คำนาม (NP[ที่+กริยาวลี]) 名詞 e.g. (17)	√	√	√
4. คำบุพบท (pp[ที่+นามวลี]) 前置詞 e.g. (18)	√	√	√

5. ปรากฏในคำซ้อน (ที่+ _ +ที่+ _)	√	√	√
重複表現に現れる語 e.g. (19)			
6. ปรากฏร่วมกับคำว่า “จะ” เป็นส่วนประกอบของกริยาวลี (คำกริยา+ที่+จะ+กริยาวลี)			√
<i>cà?</i> の前に現れ動詞句構成素をつくる語 e.g. (20)			
7. นำหน้าหัวข้อของประโยค		√	√
文の主題を導く語 e.g. (21)			

- (11) *thii thəə tham yàaŋ níi mây dii læy*
 1-1 あなた する 様 この 否定 よい 強調
 あなたがこのようにするのは全くよくない
- (12) *mîit thii cháy thǎaŋ yâa*
 刀 1-2 使う 削り取る 草
 草を刈るのに使う刀
- (13) a. *khòp cay thəə thii tham phlɛ̃ hây*
 感謝する 彼女 1-3 する 傷 恩恵
 傷の処置をしてくれ、彼女に感謝する
- b. *mii khwaam yindii thii dâi rǎp phrá? sǎan traai tǎn*
 ある 嬉しさ 1-3 受け取る 信任状
 信任状を受け取って、嬉しい
- (14) *khàaw thii lûuk sǎaw khâw mahǎawíthayaalay dâi*
 知らせ 1-2 娘 入る 大学 可能
pen thii chûun chom yindii khǎw phǎw mɛ̃
 繫辞 2-1 喜び褒める 所有 父母
 娘が大学に入れたという知らせは父母の喜ぶところであった
- (15) *pen thii pàap nám*
 繫辞 2-2 浴びる 水
 水を浴びる場である
- (16) *pen thii nâa klua wâa hàat thâa ?it nán*
 繫辞 2-3 恐ろしい 引用 岸 港 煉瓦 主題
naan pay cà? thùuk nám kàt
 時間が長い 行く 非現実 受動 水 侵食する

煉瓦造りの港岸は長い時間が経過すれば水に浸食されるというのは恐ろしいことだ

(17) a. *thîi* *nɔɔn*

3 寝る

寝る場所 (寝床)

b. *thîi* *tii* *khàʔ*

3 叩く 卵

卵を割る道具 (卵割り器)

(18) *phô* *tham ɲaan* *thîi* *bɔɔrisàt niramít sǎakɔɔn*

父 働く 4 会社 ニラミットサーコーン

父はニラミットサーコーン社で働く

(19) *thǔŋ* *thîi* *chìp* *thîi* *hǎay*

至る 5 消え去る 5 消え失せる

破滅に至る

(20) *khuan* *thîi* *càʔ* *pay* *ʔaw* *wáy*

適当だ 6 非現実 行く 取る ～しておく

行って取っておくべきである

(21) *thîi* *bòɔk* *wâa* *kamlaj càʔ* *thûam kɔɔ* *phrɔʔ*

7 告げる 引用 今にも～する 溢れる 接続 なぜなら

wâa *tɔɔn nán* *yaŋ* *mây* *thûam*

引用 あのと き まだ 否定 溢れる

今にも溢れると言ったのは、あのと きはまだ溢れていなかったからだ

表 2 は、Kitsombat 1981 が明らかにした *thîi* の各使い方の生起順を筆者がわかりやすくまとめ直したものである。表 2 の中の Kitsombat 1981 の分類表記(「3. 名詞」、「2-2. 動詞 *pen* の後で動詞句を導き名詞句にする語」など)の直後の注記(「単名詞、類名詞、複合名詞の構成素に相当」、「類名詞に相当」など)は、Kitsombat 1981 が同定した *thîi* の使い方の分類(表 1 の 1-1～7 の 11 種類)が Kullavanijaya 2008 が認定した *thîi* の意味機能の種類(7.1 節の表 8)のどれに相

当するのかわを示している。

表 2 : Kitsombat 1981 の調査からわかった *thîi* の各使い方の生起順

	S	A	R
3. 名詞（単名詞、類名詞、複合名詞の構成素に相当）, e.g. (17) ที่นอน, ที่ลิ้น	√	√	√
2-2. 動詞 <i>pen</i> の後で動詞句を導き名詞句にする語（類名詞に相当）, e.g. (15) เป็นที่อาบน้ำ	√	√	√
5. 重複表現に現れる語（複合名詞の構成素に相当）, e.g. (19) ถึงที่จับที่หาย	√	√	√
4. 前置詞, e.g. (18) พ่อทำงานที่บริษัทนิรมิตสากล	√	√	√
1-2. 節を導き名詞句構成素にする語（関係節化形式に相当）, e.g. (12) มีคนที่ใช้ถางหญ้า	√	√	√
2-1. 動詞 <i>pen</i> の後で動詞句を導く語（補文節化形式に相当）, e.g. (14) ข้าวที่ถูกสาวสอบเข้ามหาวิทยาลัยได้เป็นที่ชื่นชมยินดีของพ่อแม่	√	√	√
7. 文の主題を導く語（名詞化形式に相当）, e.g. (21) ที่บอกว่ากำลังจะท่วมก็เพราะว่าตอนนั้นยังไม่ท่วม		√	√
1-3. 節を導き動詞句構成素にする語（補文節化形式に相当）, e.g. (13) ขอบใจเธอที่ทำให้พลไฟ, มีความยินดีที่ได้รับพระสาส์นตราตั้ง			√
6. <i>cà?</i> の前に現れ動詞句構成素をつくる語（補文節化形式に相当）, e.g. (20) ควรที่จะไปเอาไว้			√
2-3. 動詞 <i>pen</i> の後で動詞句と引用節を導く語（補文節化形式に相当）, e.g. (16) เป็นที่น่ากลัวว่าหากทำอิฐนั้นนานไปจะถูกน้ำกัด			√
1-1. 節を導き名詞句にする語（名詞化形式に相当）, e.g. (11) ที่เธอทำอย่างนี้ไม่ดีเลย			√

3. Bisang 1996

Bisang (1996: 557-559) は *thîi* の文法化経路を「1. 名詞 noun > 2. 類名詞 class noun > 3. 名詞化形式 nominalizer > 4. 連結名詞 conjunctive noun（補文節化形式 complementizer、副詞節化形式 adverbial subordinator）、5. 関係節化形式 relative marker」と想定した（表 3）。しかしこの仮説はタイ語の通時的言語資料に基づいて導き出されたものではない。

表 3： Bisang 1996 が想定する *thîi* の文法化経路

1. 名詞 noun, e.g. (22) กินที่
> 2. 類名詞 class noun, e.g. (23) ที่จอดรถ
> 3. 名詞化形式 nominalizer, e.g. (24) ที่เขาทำไม่ได้ผล
> 4. 連結名詞 conjunctive noun (補文節化形式 complementizer、副詞節化形式 adverbial subordinator), e.g. (25) ผมยินดีที่คุณมาหา
5. 関係節化形式 relative marker, e.g. (26) จดหมายที่ผมอยากเขียนให้คุณ, การที่เขาสอบตกผมไม่ประหลาดใจเลย

(22) *kin* *thîi*

食う 1
 場所を食う

(23) *thîi* *còot* *rót*

2 停まる 車
 駐車場

(24) *thîi* *kháw* *tham* *níi* *mây* *dây* *phǎn*

3 彼 する 主題 否定 実現する 結果
 彼がしたことは結果が出なかった

(25) *phǎm* *yindii* *thîi* *khun* *maa* *hǎa*

私 嬉しい 4 あなた 来る 探す
 私はあなたが訪ねて来て嬉しい

(26) a. *còt mǎay* *thîi* *phǎm* *yàak* *cà?* *khǎn* *hây* *khun*

手紙 5 私 欲する 非現実 書く 与える あなた
 私があなたに書いてあげたい手紙

b. *kaan* *thîi* *kháw* *sòot* *tòk*

こと 5 彼 試験する 落ちる

phǎm *mây* *pralàat cay* *lǎey*

私 否定 不思議に思う 強調

彼が試験に落ちたことは、私は全く不思議に思わない

4. Singnoi 2000

Singnoi (2000: 324-327) は *thîi* の意味拡張の方向性を「1. 実質名詞 lexical noun > 2. 類名詞 class noun > 3. 場所関係名詞 relational noun > 4. 関係代名詞 relative pronoun > 5. 名詞化形式 nominalizer」と想定した（表 4）。この仮説は通時的言語資料に依拠したものではない。

表 4: Singnoi 2000 が想定する *thîi* の意味変化の方向性

1. 実質名詞 lexical noun meaning ‘a place’, e.g. (27) เขาต้องการ <u>ที่</u> สำหรับพักผ่อน, <u>ที่</u> นั่ง
> 2. 類名詞 class noun referring to ‘a place, person, or object’, e.g. (28) <u>ที่</u> ตัดเล็บ
> 3. 場所関係名詞 relational noun guiding to a locative noun, e.g. (29) เขากินข้าว <u>ที่</u> โรงเรียน
> 4. 関係代名詞 relative pronoun referring to anything, e.g. (30) เมือง <u>ที่</u> ฉันอยู่, คน <u>ที่</u> เดินผ่าน, ความคิด <u>ที่</u> ดี, เรื่อง <u>ที่</u> เขาพูดบ่อยๆ <u>นั้น</u> ไม่จริง
> 5. 名詞化形式 nominalizer in clausal nominalization (a mere grammatical marker, a dependent syntactic marker), e.g. (31) <u>ที่</u> เขามาไม่ได้ดีก็เหมือนกัน, การ <u>ที่</u> เขาพูดบ่อยๆ <u>นั้น</u> ไม่ดี

(27) a. *kháw tɔŋ kaan thîi sǎmràp pháak phòɔn*
彼 欲する 1 ~用の 休養する
彼は休養するための土地が欲しい

b. *thîi nâŋ*
1 座る
座る場所（座席）

(28) *thîi tàt lép*
2 切る 爪
爪を切るもの（爪切り）

(29) *kháw kin khâaw thîi rooŋ rian*
彼 食べる 飯 3 学校
彼は学校でご飯を食べる

(30) a. *muang thîi chán yùu*
街 4 私 住む
私が住む街

- b. *khon thîi dæən phàan*
人 4 歩く 通過する
歩いて通り過ぎた人
- c. *khwaam khít thîi dii*
考え 4 よい
よい考え
- d. *rûaŋ thîi kháw phûut bòi bòi nán mây cī*
話 4 彼 話す 頻繁に 主題 否定 本当だ
彼がしょっちゅう話している話は本当ではない
- (31) a. *thîi kháw maa mây dáy kô dii mǔan kan*
5 彼 来る 否定 可能 接続 よい 同じ
彼が来られないのもよからう
- b. *kaan thîi kháw phûut bòi bòi nán mây dii*
こと 5 彼 話す 頻繁に 主題 否定 よい
彼がしょっちゅう話すのはよくない

5. Diller 2001

Diller (2001: 161-162, 167) は Givón 1991 に倣い、*thîi* の文法化経路を「1. 名詞 ‘place’ > 2. 場所関係詞 locative relative > 3. 一般関係詞 general relative (関係節化形式 relative clause marker) > 4. 現実節化形式 factitive clause marker」と想定した (表 5)。この仮説が実際のタイ語の通時的言語資料に依っているかどうかは、何ら言及がないのではっきりしない。また、*thîi* の具体例も挙げられていなかった。

表 5: Diller 2001 が想定する *thîi* の文法化経路

1. 名詞 ‘place’
> 2. 場所関係詞 locative relative
> 3. 一般関係詞 general relative (関係節化形式 relative clause marker)
> 4. 現実節化形式 factitive clause marker

6. Kullavanijaya 2008

Kullavanijaya (2008: 443-463) は通時的言語資料を用いて *thîi* の歴史的変化を調べ、「1. 単純名詞 simple noun > 2. 類名詞 class noun > 3. 複合名詞 compound の構成素 > 4. 関係節化形式 relative clause marker、5. 補文節化形式 complementizer > 6. 名詞化形式 nominalizer、7. 前置詞 preposition、8. 序数詞化形式 ordinal numeral marker > 9. 類別詞 classifier」という異なる *thîi* の使い方の生起順を明らかにした（表 6）。表 6 の上欄の「S」、「A」、「R」、「M」の記号はそれぞれ「スコタイ王朝時代（13-14 世紀）」、「アユタヤ王朝時代（17 世紀）」、「ラタナコシン王朝時代中期（19-20 世紀）」、「現代（20-21 世紀）」の略である。

表 6： Kullavanijaya 2008 の調査からわかった *thîi* の各使い方の生起順

	S	A	R	M
1. 単純名詞 simple noun, e.g. (32) ที่ดินพื้นที่	√	√	√	√
> 2. 類名詞 class noun, e.g. (33) ที่ขายตัว	√	√	√	√
> 3. 複合名詞 compound の構成素, e.g. (34) ที่ปรึกษา, คงที่, ที่จริง	√	√	√	√
> 4. 関係節化形式 relative clause marker, e.g. (35) หุ่นละครเล็กที่เขาหลงไหล			√	√
5. 補文節化形式 complementizer, e.g. (36) ถึงเวลาที่กระทรวงศึกษาจะต้องทบทวนเรื่องนี้, เขาคิดที่จะออกจากการงาน, การที่ข้าพระพุทธเจ้าจะจัดให้มีโรงเรียนสอนหนังสืออังกฤษขึ้นนั้น...			√	√
> 6. 名詞化形式 nominalizer, e.g. (37) ที่กระทรวงศึกษามีนโยบายดังกล่าวว่าจะต้องทบทวน			√	√
7. 前置詞 preposition, e.g. (38) เด็กๆ ที่บ้านเขาไม่สบายบ่อย			√	√
8. 序数詞化形式 ordinal numeral marker, e.g. (39) ลูกคนที่สองของเขาเก่ง			√	√
> 9. 類別詞 classifier, e.g. (40) ขอน้ำชาสองที่				√

(32) *thîi* *din* *phûnun ní*
 1 土 類別 この
 この土地

(33) *thîi* *khăay* *túa*
 2 売る 券

券売所

(34) a. *thîi* *phrúksǎa*

3 相談する

顧問

b. *khon* *thîi*

旧態を維持する 3

不変の

c. *thîi* *cîŋ*

3 本当だ

本当のところ

(35) *hùn lakhon* *lék* *thîi* *kháw* *lǒŋ lǎy*

操り人形 小さい 4 彼 耽溺する

彼が耽溺している小さな操り人形

(36) a. *thǔŋ* *weelaa* *thîi* *krasuaŋ súksǎa* *cà?* *tôn*

至る 時間 5 教育省 非現実 ～であるはずだ

thóp thuan *rûaŋ* *ní*

再検討する 話 この

教育省がこの話を再検討して然るべき時期に至った

b. *kháw* *khít* *thîi* *cà?* *?òok* *càak* *ŋaan*

彼 考える 5 非現実 出る ～から 仕事

彼は仕事を辞めようと考えた

c. *kaan* *thîi* *khâaphrá?phútthacâw* *cà?* *càt* *hây*

こと 5 私 非現実 処置する 誘発

mii *rooŋ rian* *sǎn* *náŋsǔu?aŋkrít* *khûn* *nán* ...

ある 学校 教える 本 英語 上る 主題

私が英語学校を設立することは...

(37) *thîi* *krasuaŋ sùksǎa* *mii* *nayoobaay* *daŋ* *klàaw*

6 教育省 ある 政策 ～の如く 述べる

nâa cà? *tôn* *thóp thuan*

～べきだ ～であるはずだ 再検討する

教育省に前述のような政策があることは再検討して然るべきだ

- (38) *dèk dèk thîi bâan kháw mây sabaay bôy*
 子供達 7 家 彼 否定 楽だ 頻繁だ
 彼の家の子供達はしょっちゅう身体具合が悪い
- (39) *lûuk khon thîi sǎŋ khǎŋ kháw kèn*
 子供 類別 8 二 所有 彼 優秀だ
 彼の二番目の子供は優秀だ
- (40) *khǎo nám chaa sǎŋ thîi*
 乞う お茶 二 9
 お茶を二人前ください

7. 比較

以上、*thîi* の歴史的変化に関する 5 つの先行研究を概観してきたが、それぞれが同定している *thîi* の意味機能の種類、およびそれぞれが想定している *thîi* の意味変化の方向性は様々である。

7. 1. *thîi* の意味機能の種類

表 7 は、5 つの先行研究が同定した *thîi* の意味機能の種類を比較したものである。もっとも細かい分類をしている Kullavanijaya 2008 の各種類（表 7 の右端の欄）が他の先行研究のどの種類に相当するかを示した。空欄は該当する種類がないことを意味する。

高橋清子. 2012. 「タイ語の機能語 *thîi* の歴史的変化に関する先行研究」『神田外語大学紀要』第 24 号, 157-179.
Takahashi, Kiyoko. 2012. Previous studies on historical changes of the functional morpheme *thîi* in Thai. *The Journal of Kanda University of International Studies*, Vol.24, 157-179.

表 7： 5 つの先行研究が同定する *thîi* の意味機能の種類

Kitsombat 1981	Bisang 1996	Singnoi 2000	Diller 2001	Kullavanijaya 2008
3. 名詞	1. 名詞	1. 実質名詞	1. 名詞	1. 単純名詞
2-2. 動詞 <i>pen</i> の後ろで動詞句を導き名詞句にする語, 5. 重複表現に現れる語	2. 類名詞	2. 類名詞		2. 類名詞
3. 名詞, 2-2. 動詞 <i>pen</i> の後ろで動詞句を導き名詞句にする語, 5. 重複表現に現れる語	2. 類名詞	1. 実質名詞, 2. 類名詞		3. 複合名詞の構成素
1-2. 節を導き名詞句構成素にする語	5. 関係節化形式	4. 関係代名詞	3. 一般関係詞 (関係節化形式)	4. 関係節化形式
2-1. 動詞 <i>pen</i> の後ろで動詞句を導く語, 1-3. 節を導き動詞句構成素にする語, 6. <i>cà?</i> の前に現れ動詞句構成素をつくる語, 2-3. 動詞 <i>pen</i> の後ろで動詞句と引用節を導く語	4. 連結名詞 (補文節化形式、副詞節化形式) 5. 関係節化形式	4. 関係代名詞, 5. 名詞化形式	4. 現実節化形式	5. 補文節化形式
7. 文の主題を導く語, 1-1. 節を導き名詞句にする語	3. 名詞化形式	5. 名詞化形式		6. 名詞化形式
4. 前置詞		3. 場所関係名詞	2. 場所関係詞	7. 前置詞
				8. 序数詞化形式
				9. 類別詞

Kullavanijaya 2008 が認定した *thîi* の意味機能 (表 7 の右端の欄) の定義は表 8 のとおりである。

表 8 : Kullavanijaya 2008 が認定した *thîi* の意味機能

1. 単純名詞 simple noun : 「一片の土地、場所」を意味する名詞
2. 類名詞 class noun : 抽象度の高い「ところ」を意味する名詞
3. 複合名詞 compound の構成素 : 「ところ」以外の、抽象度の高い「人、道具、状態」などを意味する名詞
4. 関係節化形式 relative clause marker : 名詞の後ろに生起し、修飾節を導く形式（修飾される名詞と修飾節の中の動詞は何らかの統語関係を持つ、すなわち、飾節される名詞は修飾節の中の動詞の主語や目的語である）
5. 補文節化形式 complementizer : 名詞や動詞の後ろに生起し、補文節を導く形式（補文節を従える名詞や動詞と補文節の中の動詞との間には何ら文法関係が認められない）
6. 名詞化形式 nominalizer : 節の前に生起し、その節を名詞化する形式（名詞化された節は、補文節と同様に目的語として機能する他、主語としても機能する）
7. 前置詞 preposition : 定義は言及なし（前置詞 <i>thîi</i> の生起は非必須であり、場所や位置を含意する動詞の後ろには前置詞 <i>thîi</i> は生起しないことがある）
8. 序数詞化形式 ordinal numeral marker : 数詞の前に生起し、数詞を序数詞化する形式
9. 類別詞 classifier : 定義は言及なし

7. 2. *thîi* の意味変化の方向性

thîi の文法化経路や意味拡張については論じていない Kitsombat 1981 を除いた 4 つの先行研究のすべてが、機能語の *thîi* の起源語として「場所」を意味する名詞の *thîi* を想定している。しかし、どのような機能語がどのような順番で派生したのかという意味変化の方向性については、それぞれ考えが異なる。前節の表 7 からわかるように、機能語の *thîi* の中で序数詞化形式と類別詞は Kullavanijaya 2008 以外の先行研究で言及されていない。Kullavanijaya 2008 によれば、序数詞化形式の *thîi* は他の機能語の *thîi* と語源が異なる可能性があり、類別詞の *thîi* は現代（20-21 世紀）になって確立した形式であるという。また、前置詞の *thîi* は Bisang 1996 を除く 4 つの先行研究で言及されているが、どの *thîi* の使い方を前置詞の用法と見なすのかについて、先行研究の見解は一樣ではな

い。本節では、(第 1 節で筆者がその基本的機能は同じなのではないかという疑問を述べた) 2 種類の機能語の *thîi*—名詞化形式と従属節化形式(関係節化形式、補文節化形式、副詞節化形式など) —に焦点を当てて考察したい。

表 9 は、先行研究で想定されている *thîi* の意味変化の方向性を比較対照したものである。名詞化形式には直線の下線を引き、従属節化形式には波線の下線を引いた。

表 9： 先行研究が想定する *thîi* の意味変化の方向性

Kitsombat 1981	言及なし
Bisang 1996	名詞 > <u>名詞化形式</u> > <u>連結名詞(補文節化形式、副詞節化形式)、関係節化形式</u>
Singnoi 2000	名詞 > 場所関係名詞 > <u>関係代名詞(関係節化形式、補文節化形式)</u> > <u>名詞化形式(補文節化形式も一部含む)</u>
Diller 2001	名詞 > 場所関係詞 > <u>一般関係詞(関係節化形式)</u> > <u>現実節化形式(補文節化形式)</u>
Kullavanijaya 2008	名詞 > <u>関係節化形式、補文節化形式</u> > <u>名詞化形式</u>

表 9 から次のことがわかる。Diller 2001 は「名詞化形式」に言及していない。Bisang 1996 は「名詞化形式 > 従属節化形式」という派生関係を想定しているのに対し、Kullavanijaya 2008 は「従属節化形式 > 名詞化形式」という逆の派生関係を想定している。

thîi の意味変化の方向性に言及している 4 つの先行研究の中で、実際の通時的言語資料にあたって実証的調査を行っているのは Kullavanijaya 2008 だけである。Kullavanijaya (2008: 463)は自らの調査結果に基づき以下のような仮説を立てた。ラタナコシン王朝時代中期(19-20 世紀)には、*kaan* ‘こと’ や *sîy* ‘もの’ といった抽象度の高い意味を表す類名詞の後ろに *thîi* 名詞補文節が生起することが多くなり (e.g. (36c) การที่ข้าพระพุทธเจ้าจะจัดให้มีโรงเรียนสอนหนังสืออังกฤษขึ้นนั้น...), その類名詞は省略

されることがあったが、そうした類名詞を伴わない *thîi* 名詞補文節の多用が結果として *thîi* 名詞化形式 (e.g. (37) ที่กระทรวงศึกษาธิการน่าจะต้องพบพาน) の誕生につながった。

一方、Kitsombat 1981 が調べた *thîi* の各使い方の生起順 (2 節の表 2) に目を転じてみると、以下のことがわかる。関係節化形式に相当する「1-2. 節を導き名詞句構成素にする語」(e.g. (12) มีดที่ใช้แทงหนู) と補文節化形式に相当する「2-1. 動詞 *pen* の後で動詞句を導く語」(e.g. (14) ข้าวที่ถูกสาวสอบเข้ามหาวิทยาลัยได้เป็นที่ชื่นชมยินดีของพ่อแม่) は 13-14 世紀から使われ、名詞化形式に相当する「7. 文の主題を導く語」(e.g. (21) ที่บอกว่ากำลังจะท่วมก็เพราะว่าตอนนั้นยังไม่ท่วม) は 14-18 世紀から使われ、補文節化形式に相当する「1-3. 節を導き動詞句構成素にする語」(e.g. (13) ขอบใจเธอที่ทำให้ผมได้, มีความยินดีที่ได้รับพระสาส์นตราตั้ง)、*cà?* の前に現れ動詞句構成素をつくる語 (e.g. (20) ควรที่จะไปเอาไว้)、*pen* の後で動詞句と引用節を導く語 (e.g. (16) เป็นที่น่ากลัวว่าหาจะทำอันนั้นนานไปจะถูกน้ำกัด) と名詞化形式に相当する「1-1. 節を導き名詞句にする語」(e.g. (11) ที่เธอทำอย่างนี้ไม่ดีเลย) は 18-20 世紀から使われた。つまり、同じ名詞化形式あるいは従属節化形式であっても、その細かい種類—どのような構文の構成素として使われるのか—によって使われ始めた時期が異なるのである。関係節化形式は 13-14 世紀には使われていたが、補文節化形式はその種類によって、13-14 世紀に使われていたものもあれば、18-20 世紀に使われるようになったものもある。名詞化形式もその種類によって、14-18 世紀に使われるようになったものもあれば、18-20 世紀に使われるようになったものもある。

注目すべきは、Kitsombat (1981: 26-27) も (Kullavanijaya 2008 が *thîi* 名詞化形式の起源だと考える) 「*kaan* ‘こと’ + *thîi* + 節」という 18-20 世紀に使われるようになった構文に言及していることである。Kitsombat 1981 はこの構文の *thîi* を関係節化形式に相当する「1-2. 節を導き名詞句構成素にする語」に分類し、例として (41a), (41b) を挙げた。

- (41) a. *thǎam duu kaan thîi khít cà? tham muang*
 尋ねる ～してみる こと 考える 非現実 つくる 国
say nán kô waa kaan khrán
 サイ (カジュマルの木) 主題 接続 言う こと 類別
nîi n̄aay kwàa khrán kòon
 この 易しい ～より 類別 以前
 尋ねてみると、サイの国をつくろうということは、今回のことは前回よりも易しいと言う
- b. *kaan thîi cà? lén nám kěj sǎmráp hây dèk dèk*
 こと 非現実 遊ぶ 氷 ～用に 誘発 子供達
lén kháw mii thîi lén yùu thîi lǎy
 遊ぶ 彼ら ある 場所 遊ぶ 継続 場所 後ろ
keelá?rii pen sanǎam
 ギャラリー なる 広場
 子供達に遊ばせるための氷遊びについては、彼らはギャラリーの裏に広場になった遊び場を持っている

興味深いことに、この「*kaan* ‘こと’ + *thîi* + 節」という構文の統語構造をどう分析するのか、すなわち、この構文に含まれる *thîi* の意味機能をどう解釈するのか、その点に関する先行研究の見解は一致していない (表 10)。

表 10 : 「*kaan* ‘こと’ + *thîi* + 節」構文に含まれる *thîi* の意味機能の認定

Kitsombat 1981	節を導き名詞句構成素にする語 (関係節化形式に相当), e.g. (41a) การที่คิดจะทำเมืองไทรนั้น ก็ว่าการครั้งนี้ง่ายกว่าครั้งก่อน, (41b) การที่จะเล่นน้ำแข็งสำหรับให้เด็กๆเล่น เขามีที่เล่นอยู่ที่หลังแกละริเปนสนาม
Bisang 1996	関係節化形式 relative marker, e.g. (26b) การที่เขาชอบตก ผมไม่ประหลาดใจเลย
Singnoi 2000	名詞化形式 nominalizer in clausal nominalization (補文節化形式も一部含む), e.g. (31b) การที่เขาพูดบ่อยๆนั้นไม่ดี
Diller 2001	言及なし
Kullavanijaya 2008	名詞補文節化形式 complementizer of noun complement, e.g. (36c) การที่

	ข้าพระพุทธเจ้าจะจัดให้มีโรงเรียนสอนหนังสืออังกฤษขึ้นนั้น...
--	---

18-20 世紀になってから使われるようになった「*kaan* ‘こと’ + *thîi* + 節」という構文に含まれる *thîi* を、Kitsombat 1981 と Bisang 1996 は関係節化形式とみなし、Kullavanijaya 2008 は補文節化形式とみなし、Singnoi 2000 は名詞化形式とみなしている。ここで、Singnoi 2000 による *thîi* の意味機能の分類（4 節の表 4 および 7.1 節の表 7）は他の先行研究の分類とはかなり異なることに留意しなければならない。特に「関係代名詞 *relative pronoun referring to anything*」(e.g. (30) เมืองที่ฉันอยู่, คนที่เดินผ่าน, ความคิดที่ดี, เรื่องที่เขาพูดบ่อยๆ นั้นไม่จริง) と「名詞化形式 *nominalizer in clausal nominalization (a mere grammatical marker, a dependent syntactic marker)*」(e.g. (31) เขามาไม่ได้ก็คิดเหมือนกัน, การที่เขาพูดบ่อยๆ นั้นไม่ดี) という 2 つの機能語の *thîi* の定義は、他の先行研究には見られない異質なものである。Singnoi 2000 は「関係節化形式（7.1 節の表 8 の 4）」、「補文節化形式（7.1 節の表 8 の 5）」という分類を認めず、実質的意味を表す名詞（指示機能を持った名詞）としての特徴をどれだけ保っているのか—名詞性の度合い—を考慮して、「名詞性の高い関係代名詞」と「名詞性の低い名詞化形式」という 2 つの種類に分けた。その上で、「*kaan* ‘こと’ + *thîi* + 節」構文の *thîi* を「名詞性の低い名詞化形式」と認定した。筆者は Singnoi 2000 の考え方に共感する。

8. おわりに

本稿では、タイ語の機能語 *thîi* の歴史的変化に言及している 5 つの先行研究を取り上げ、その調査結果や仮説を比較した。どの仮説がもっとも合理的であるのかは、実際に筆者自らが言語資料にあたって用例を収集し、先行研究の考察結果を踏まえつつ様々な観点から分析を試みなければ、正確には判断できない。ある語の歴史的意味変化を考察するとき、その語がどのような構文の構成素として使われたのか、その語を含む様々な構文はそれぞれいつ頃からいつ頃まで

使われ、どのような統語的変化、意味的変化を経たのか、それぞれの構文の使用頻度はどのように変遷していったのか、等々、詳しく調べる必要がある。

今回 5 つの先行研究を比較検討することによって、*thii* の歴史的変化に関する興味深い考察点を見つけることができた。今後機会を見つけて、*thii* を構成素として含む様々な構文についての通時的調査を試みたい。

<参考文献>

- Bisang, Walter. 1993. Classifiers, quantifiers and class nouns. *Studies in Language* 17.1, 1-51.
- Bisang, Walter. 1996. Areal typology and grammaticalization: Processes of grammaticalization based on nouns and verbs in East and Mainland South East Asian languages. *Studies in Language* 20.3, 519-597.
- Diller, Anthony. 2001. Grammaticalization and Tai syntactic change. In Tingsabadh, M. R. Kalaya and Arthur S. Abramson (eds.) *Essays in Tai Linguistics*, 139-175. Bangkok: Chulalongkorn University Press.
- Givón, Talmy. 1991. The evolution of dependent clause morpho-syntax in Biblical Hebrew. In Traugott, Elizabeth C. and Bernd Heine (eds.) *Approaches to Grammaticalization*, Vol.2, 257-310. Amsterdam: John Benjamins.
- กิจสมบัติ, พรทิพย์ (Kitsombat, Pornthip). 1981. การใช้คำ ที่ ซึ่ง อัน (*The Usage of /thii/, /sûn/ and /pan/*). Unpublished Master's thesis, Chulalongkorn University.
- Kullavanijaya, Pranee. 2008. A historical study of /thii/ in Thai. In Diller, Anthony V. N. et al. (eds.) *The Thai-Kadai Languages*, 445-467. London: Routledge.
- Singnoi, Unchalee. 2000. *Nominal Constructions in Thai*. Unpublished Ph.D. dissertation, University of Oregon.
- 高橋清子. 2011. 「タイ語の関係節構文」長谷川信子（編）『70 年代生成文法再認識—日本語研究の地平—』, 253-275. 開拓社.